

整備効果①

開通直後の交通状況

● 圏央道の開通後の日交通量は、平均17,100台。

● これまで開通していた隣接区間及び新湘南バイパスの交通量は対前年同週比較で、大幅に増加。

圏央道（寒川南IC～寒川北IC間）：2,900台→14,700台[407%増]

（茅ヶ崎中央IC～藤沢IC間）：22,500台→26,100台[16%増]

新湘南バイパス（茅ヶ崎西IC～茅ヶ崎海岸IC間）：8,700台→10,900台[25%増]

● 放射方向の高速道路では、圏央道外側・内側ともに対前年同週比較で、大きな変化なし。

関越道（鶴ヶ島IC～鶴ヶ島JCT間）：105,700台→104,100台[変化無し]

（鶴ヶ島JCT～川越IC間）：97,600台→93,600台[4%減]

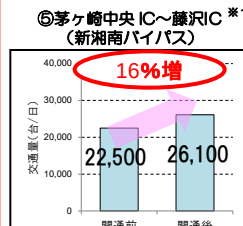
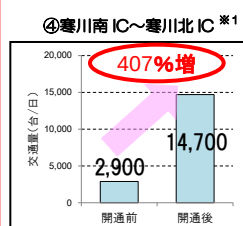
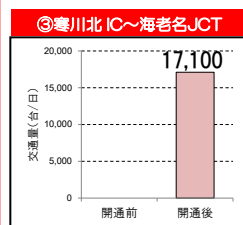
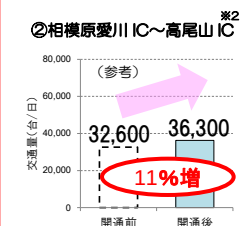
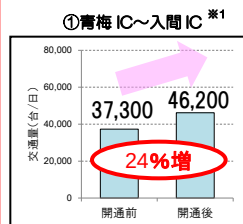
中央道（相模湖東IC～八王子JCT間）：50,200台→49,100台[2%減]

（八王子JCT～八王子IC間）：41,300台→42,600台[3%増]

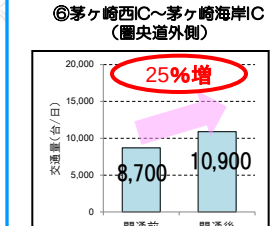
東名高速（秦野中井IC～厚木IC間）：97,300台→100,300台[3%増]

（横浜町田IC～海老名JCT間）：136,700台→130,800台[4%減]

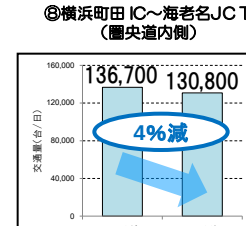
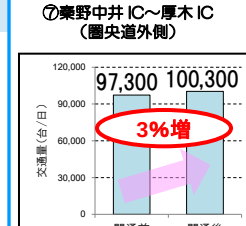
①,②,③,④,⑤ 圏央道



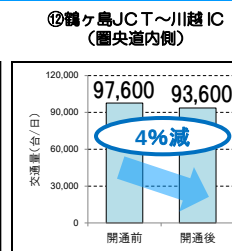
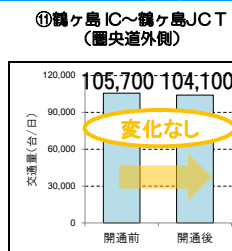
⑥ 新湘南バイパス ※1



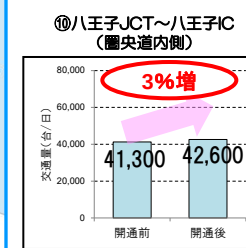
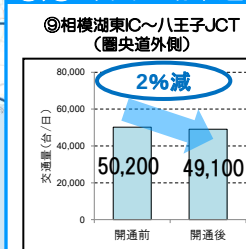
⑦,⑧ 東名高速道路 ※1



⑪,⑫ 関越自動車道 ※1



⑨,⑩ 中央自動車道 ※1



※1 出典: NEXCOデータ

開通前: 平成26年3月10日(月)～3月16日(日)の日交通量の平均値
開通後: 平成27年3月9日(月)～3月15日(日)の日交通量の平均値

※2 出典: NEXCOデータ

開通前: 平成27年3月1日(日)～3月7日(土)の日交通量の平均値
開通後: 平成27年3月9日(月)～3月15日(日)の日交通量の平均値

整備効果①

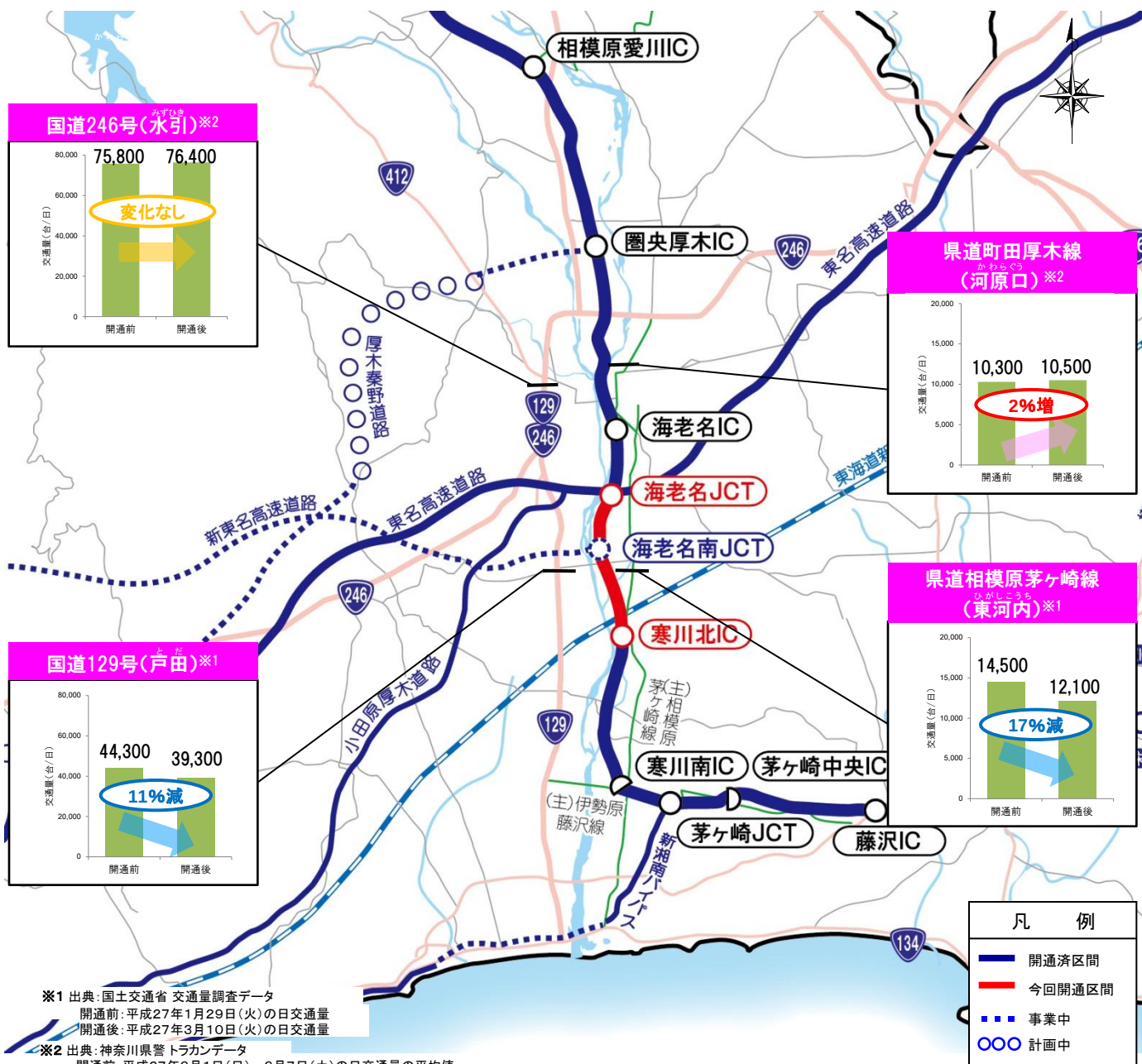
開通直後の交通状況

- 開通区間に並行する一般道では、国道129号の戸田および県道相模原茅ヶ崎線の東河内で交通量が減少しており、開通区間への転換が図られている。

国道129号 戸田：44,300台→39,300台[11%減]

県道相模原茅ヶ崎線 東河内：14,500台→12,100台[17%減]

■今回開通区間の位置図



- 沿線に立地する企業では、圏央道の整備により輸送効率の向上や輸送の品質確保、所要時間の短縮・正確性向上などに期待していますといった声を頂いています。

物流施設や工場の立地等、民間の投資を喚起

【圏央道の早期に開通した区間】

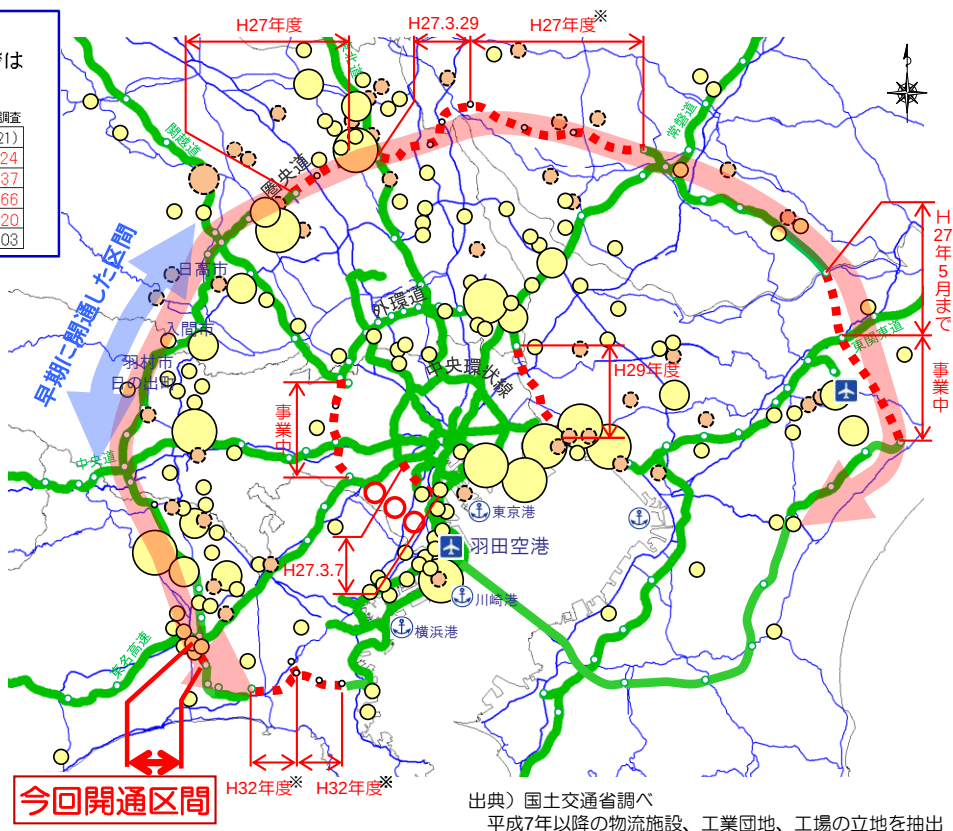
・平成19年に全通した関越道～中央道間では既にストック効果が発現

製造品出荷額（億円）		出典：工業統計調査	
市町村名	H21 → H24 (H24/H21)		
日高市	1,271 → 1,579		1.24
入間市	2,823 → 3,872		1.37
羽村市	3,823 → 6,350		1.66
日の出町	529 → 637		1.20
埼玉県+東京都	197,983 → 203,373		1.03

凡 例

道路	
—	高速道路
---	高速道路(事業中)
—	国道
企業立地件数	
●	立地済み
●	立地予定
○	1～2件
○	3～4件
○	5件以上

※区間の開通時期については、土地収用法に基づく手続きによる用地取得等が速やかに完了する場合



出典）国土交通省調べ
平成7年以降の物流施設、工業団地、工場の立地を抽出

沿線に立地する企業の声

物流企業の声（神奈川県内）



神奈川県内や東京都・埼玉県西部を中心に段ボール製品を配送しています。

相模原愛川IC～高尾山ICの開通で便利になったが、今回の寒川北IC～海老名JCTの開通により輸送効率が更に向上します。圏央道は路面状態が良く荷崩れが少ないのがメリットです。



主な取扱品は病院で使われる医薬品で、品質保持のため温度管理が必要です。

圏央道の開通による所要時間の短縮、正確性向上に期待しています。三環状の整備により、事故が発生した際などの選択肢が増えると思います。

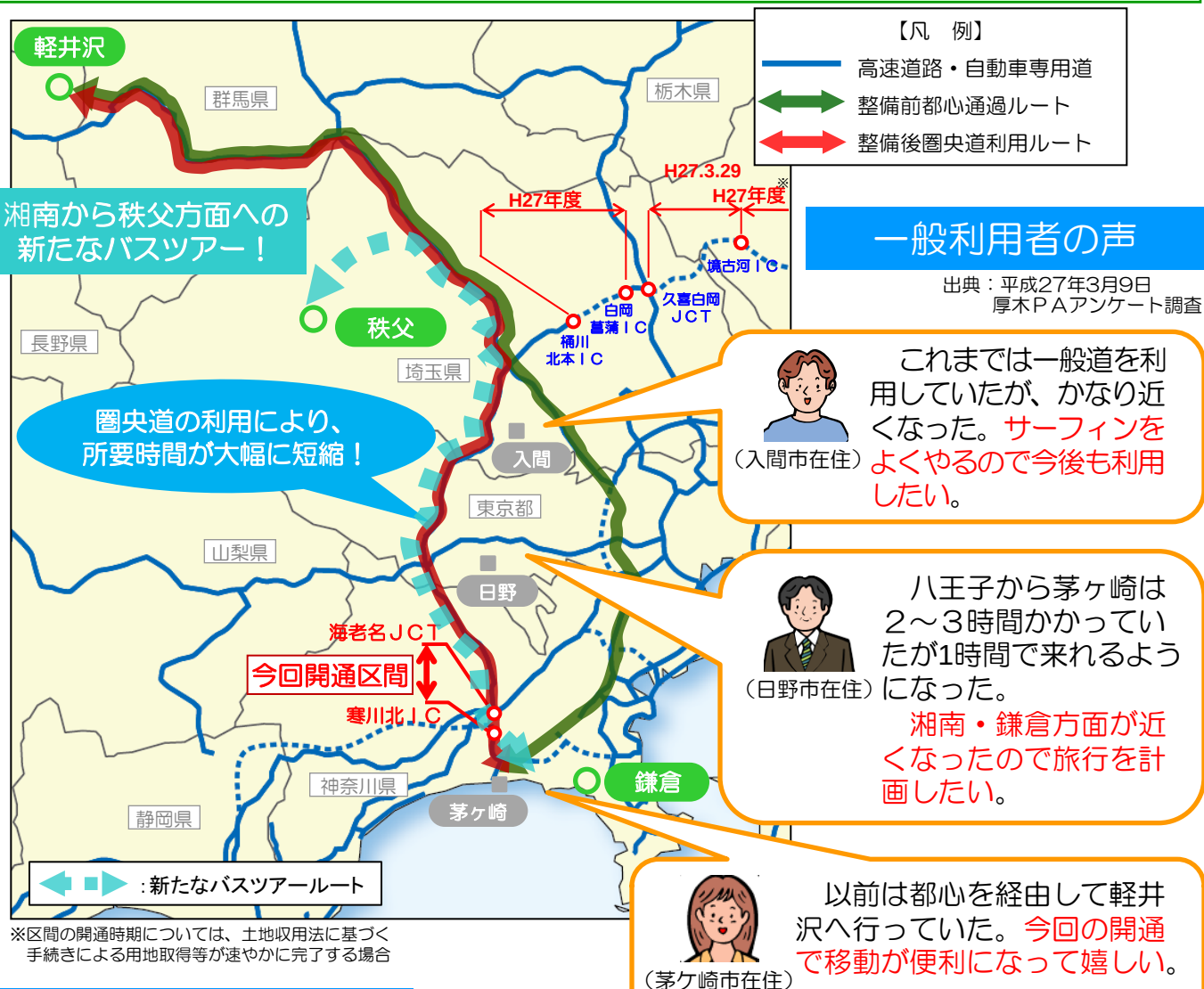
出典：平成27年3月13日 ヒアリング調査
(横浜国道事務所調べ)

整備効果③

地域経済の好循環 ～広域的な観光交流の実現～

- 圏央道の開通により、地域間の移動時間が大幅に短縮。
- 新たなバスツアーや記念フェアが開催されるなど、観光需要が喚起されています。

湘南エリアと内陸との移動性が向上



観光に関する主な反応等

● 圏央道の開通により新たなバスツアーを企画！

圏央道開通により湘南エリアから埼玉県までの移動時間が大幅に短縮され、お客様の関心も高まっているため、秩父方面への新たなバスツアーを企画しました。

出典：平成27年3月11日 旅行会社ヒアリング調査（横浜国道事務所調べ）

● 鎌倉の宿泊施設にて圏央道開通記念フェアを開催！

長野・群馬方面等から江の島や鎌倉へのアクセスが向上し、広域的な観光交流の実現により新たな観光需要が期待できると判断し、開通記念フェアを行っています。

出典：平成27年3月13日 宿泊施設ヒアリング調査（横浜国道事務所調べ）